



初夢に代えて

校長 三村美延

新しい年が明けました。皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は皆様のお陰で、通常に近い形での教育活動を行うことができました。本年も感染対策を行いながら工夫して進めてまいります。昨年と変わらぬご支援をお願いいたします。

20年ほど前の話です。何のためにそこに居たのか忘れてしまいましたが、私は休み時間に保健室にいました。私より年上でベテランの養護教諭と何かを話していたのだと思います。そこへ、校庭で転び、手のひらを擦りむいた低学年の男の子が、手当をしてもらいに入ってきました。傷口を水洗いして砂を流した後、養護教諭は消毒を始めました。

養護教諭は男の子の身長に合わせてしゃがみ、自分の左手に男の子の手のひらを開いて乗せました。男の子を安心させるように優しく語り掛けながら、擦りむいた手のひらを広げて、ピンセットで傷口にそっと触れました。「この手は、何をつかむのかな？」

男の子は（私も）答に困って黙っていると、養護教諭は「夢をつかむんだよ。どんな夢かなあ。」と笑顔を見せ、手当を終えました。まだ若かった私は予想外の答に驚き、「教師は子どもたちに夢を抱かせ、夢を叶える手段を身に付けさせる仕事なのだ」と改めて理解したのです。

さて、今日は第3学期始業式。各学級では、新学期の目標を立てたことと思います。子どもたちはどんな目標を立てたのでしょうか。

昨年大活躍したMLBエンゼルスの大谷翔平選手は、高校1年生のときに、9×9の81マスから成る目標達成シートを作成し、具体的な目標を書き込んでいたそうです。当時の野球部の佐々木洋監督によると、大谷選手は「目標に壁を作らない」のだそうです。「どうせ、できっこない。」とは思わずに、「やってみたいこと」を素直に思い浮かべ、その実現のために行動していく。

脳神経に詳しい青砥瑞人氏によると、脳は毎日大量のエネルギーを消費するので、エネルギーを効果的に使用するために、使わない神経は無くなっていくのだそうです*1。逆に、いつも理想をイメージし思い描いていれば、理想を実現するために必要な神経が発達し、現実化していくのです*2。

*1 ブルーニングと呼ばれる適応反応（脳の整理整頓） *2 引き寄せの法則

アメリカでプレーしたい。時速160kmの球を投げてみたい。ホームランもたくさん打ちたい。大谷選手の「やってみたい」という純粋な気持ちはそれまでの慣例にとらわれず、とうてい無理だと思われることも夢に描き、成し遂げていきました。

さて、新和小学校の子どもたちはどんな夢を描くのでしょうか。

今年の干支である壬寅(みずのえとら)は「新しく立ち上がる」「生まれたものが成長する」という意味があるそうです。子どもたちが大きな夢を描き、それに向かっていけるよう、私たち大人はさらに大きな夢を描いてみませんか。

